



9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4

廣益俗說辨殘編三十八目錄

○神祇

補 康淳立の說

補 長國社の說

補 終康社の說

補 檀林皇子の說

補 宮姫相淳立の說

補 平す盛源が朝を伊豆國より流せた說

○公卿

補 檀林皇子の說

補 藤仲完^{フチノ}_{ナカミツ}士^シ廣^{レヨ}說

補 神羽通伊東小條女子^{ヨリトモ イトウ モウダヌガタスメ}同人討^{タヂ}山本判官說

廣益俗說辨殘編三十八

肥後隈牟井澤節長秀輯錄

補

康鴻立^{カニ}_{ダチ}の說

○神祇

俗說云^{カナヘ}乃^{カナヘ}而^{カナヘ}立^{タチ}と^{カニ}康鴻立^{カニ}と^{カニ}よ^{カニ}。神代^{カニ}の^{カニ}し^{カニ}し^{カニ}康鴻^{カニ}。

舊傳^{カナヘ}祖^{カナヘ}命^{カナヘ}乃^{カナヘ}神^{カニ}を下^{クタ}して^{トヨアレ}老^{ハラハ}少^{ハラハ}中^{ハラハ}國^{ハラハ}氏^{ハラハ}活^{ハラハ}免^{ハラハ}。

字^{カニ}多^{カニ}少^{カニ}也^{カニ}。

今^{カニ}接^{ハツ}る^{カニ}少^{カニ}也^{カニ}。康鴻^{カニ}牟^{カニ}縁^{エシ}曰^ク。阿須^{アス}

波^ハ太^ハ明^ハ神^ハ社^ハ在^{シモ}下^{カニ}總^{トリ}國^{コオリ}喬^{トリ}石^{コオリ}郡^{コモリ}是^{コモリ}崇^{ミツル}大^{カニ}

已^{コモリ}貴^ハ人^ハ命^ハ兜^ハ阿須^ハ波^ハ命^ハ也^ハ。於^{コモリ}旅^{リヨ}行^カ發^{ハツ}驚^カ之^ハ

日就此神而禱之。於庭上折立小柴祝焉。途以此緣今俗稱齋出曰麻鳴立。萬葉集歌曰途波那迦乃阿須波乃加羨爾古志波佐志阿波禮伊波々牟迦延利久留滿豆もあつて考へ給也。

補長田社ノ說

俗說云長田忠家系圓作尾張國肉海にて義朝を害も。殺罪の爲に伊勢國守の如くと。撫一かして除せじ。又不乃考み崇りをす。此神と祀まう。今のも田社也。

今據々度會延經神名帳考證曰。伊勢國飯野郡意北多神社。意字。讀書曰。億或作意。大訓意非飯之上略。多田也。飯野之名。紀干此平。出雲風土記曰。伊弉志都帶命。豐宇氣姬。今云長田社。在朝田村北向東。此平長訓於佐。土民云長田忠宗弑源義朝。後於此地逢斬戮。其靈為祟故立此社。祭之社名意北多而在朝田村混二名為長田。作此說忠宗於尾張國被誅。如此國事とある。然りて俗說の非を考べ。

補於康社乃說

俗從云伊勢國の於康姫ハ鬼女ナリ。田村磨子レ
を妻トシ。沒後神トシ。人ノ名の於康社。これナリ。
今捕リ神トシ。帳考證曰。鈴、康郡片山神
社。古事記曰。丈山津見神之女名阿多都比
賣。住豆國阿多都加多比咩命神社。加
興阿音通。今鈴、康姫社平。弘安元年勅
使記曰。鈴、康山鈴、康姫坐坂頭之北邊。世
傳曰。坂上田村麻呂奉勅征此山鬼女且相
婚而女自伏罪就囚獻之朝。亦逃入山後甲
子。

村麻呂追到為夫妻其鬼女是鈴、康姫也。
接此征役事。不見于史籍。田村者村與字
言通。謂穀靈讚岐國田村神社。伊賀國
田守神社。常陸國稻村神社。以穀屬本
配。本靈阿多都姫為真主乎。田村與田
村麻呂同名。因作征伐之語。終至失其實
而贖神者也。とある所以。真相違を曉

補

○后妃

保經曰。檀林皇后薨。一月而葬。葬未竟。且。其
のことをして。一首の詩とよんで。弑。殺すば。死くか
う。死しむをすと。飢。すり。ねり。服。とくや。でと
う。喪。いき。は。序。遺。言。れ。ごく。附。ふ。と
て。物。鳥。の。餌。よ。ち。う。う。し。ぬ
今。接。れ。よ。檀林皇后。野。葬。の。事。正史。實錄
よ。う。つ。て。そ。う。じ。文。德。寶。錄。曰。嘉祥三年。五
月。辛巳。嵯峨天皇。大后。藤嘉。崩。六十五。壬午。
葬。大。皇。太。后。干。深。草。山。遺。言。令。薄。葬。不
官。山。陵。と。あり。多く。葬。て。と。陵。を。官。す。に

あくば。公卿。と。葬。ふ。士庶。とり。う。と。とう。う
ぐ。是。は。費。と。省。き。是。は。後。せ。ん。て。賊
ア。が。み。發。き。ま。だ。か。り。の。を。と。通。う。る。要
う。す。そ。う。ま。は。わ。び。御。と。伏。嫁。僧。附。合。し
え。葬。條。と。用。ひ。ど。中。野。と。棄。と。祀。す。う。
後。世。も。と。う。そ。て。真。事。蹟。を。の。こ。ち。う。と。近。年
ト。行。ス。書。を。こ。く。終。よ。ゆ。后。ア。葬。也。と。う。
清。恭。の。寺。と。祀。す。う。是。は。皇后。の。廟。す。う
ど。橘。列。ア。教。信。少。孫。が。奇。ち。う。往。生。拾。遺
曰。橘。列。加。古。那。会。佛。堂。少。孫。教。修。修。工。

乃ひて我そば燈あらびれ。弱ます。塵也。
 す。狗の腰と。やまと。後て寂に因て弱
 す。棄て。鳥狗の餌よき。教化塔。ハ。移
 律圓豐於那。よあう。詳小揚陽聲。讀。よ
 く。余碑北謹抄を考ふん。空石も
 駆く様。拂。歸。信。ノミテ。わづかの移。よ
 く。あく。のち。に。そ。く。く。は。安。ノ
 まく。火。煙。た。も。く。り。や。是。は。禪。緣。よ。蘭
 ひ。見。烟。早。知。是。火。と。ア。意。ち。う。そ。く。ら
 僧。惠。勢。法。唐。して。監。官。圓。師。よ。じ。そ。を。陪

モタベ。宿。玄。ふ。う。う。り。と。そ。け。る。む。す。空。石。ア
 即。可。や。り。あ。と。る。檀。林。ち。だ。建。タ。ヒ。バ。世。て
 檀。林。室。石。と。ヤ。レ。と。ア。リ。と。ア。ト。ア。レ。多。の。事。
 い。よ。う。そ。せ。葬。の。虛。名。と。ア。ト。ア。う。う。真。
 仰。ほ。一。函。ど。ん。ば。有。ぐ。う。じ。

○公卿

補

菅。莖。相。序。との。從。
 俗。役。云。蔓。莖。相。序。奇。に。鳥。む。か。猿。も。き。く。
 わ。雲。も。ぐ。か。そ。う。り。り。板。の。か。き。ぞ。せ。じ。
 今。拂。う。よ。そ。は。菅。莖。か。れ。序。く。う。わ。く。ぞ。

左國持資入道道灌の寺^{タウ}。菴^ボ京集^{ケイ}道
一セア^{ヨスル}壽^{トキニ}也^{ヨシ}。世の中小ももきこそ々々里も
徳^{モモ}也^{モモ}。かぬ^{カヌ}わう衣^{カツハ}のれ^{カツハ}が^{カツハ}、やんと^{ヤン}わう衣^{カツハ}
禮^{カツハ}と^{カツハ}べ^{カツハ}あうが^{カツハ}。若^{カシケ}の御^エ。あやま
も^{カシハ}と考^{カシハ}。天^シ湯^ダ官^{ジツ}故^{ソノ}實^{ホカ}其^{カヘナ}所^{ヨコ}
ノ^{カシハ}。養^{カシハ}室^{レバク}相^{カシハ}爲^{カシハ}はよ^{カシハ}流^{カシハ}也^{カシハ}。に^{カシハ}
國^{カシハ}道^{カシハ}明^{カシハ}也^{カシハ}。清^{カシハ}仰^{カシハ}母^{カシハ}竟^{カシハ}來^{カシハ}と^{カシハ}人^{カシハ}れり^{カシハ}。
立^{カシハ}う^{カシハ}仰^{カシハ}一^{カシハ}寫^{カシハ}。う^{カシハ}の衣^{カツハ}窮^{カシハ}の^{カシハ}称^{カシハ}。が^{カシハ}う^{カシハ}
一^{カシハ}う^{カシハ}や^{カシハ}也^{カシハ}。や^{カシハ}ま^{カシハ}ば^{カシハ}そ^{カシハ}り^{カシハ}も^{カシハ}な^{カシハ}
そ^{カシハ}げ^{カシハ}と^{カシハ}の^{カシハ}称^{カシハ}。カ^{カシハ}ニ^{カシハ}之^{カシハ}也^{カシハ}。

がれとよ飯をまくとアマリ。ひす相みる

をむくと。おらびへとくものかり

補

卒^{カシハ}ま^{モリ}射羽^{ヨリトモ}と伊豆國^{カシハ}よ流^{カシハ}と役

信^{カシハ}也^{カシハ}。太^{カシハ}多^{カシハ}房^{カシハ}佐^{カシハ}射羽^{ヨリトモ}と伊豆國^{カシハ}よ流^{カシハ}也^{カシハ}。ま
み^{カシハ}あ^{カシハ}や^{カシハ}ま^{カシハ}り^{カシハ}ら^{カシハ}ど^{カシハ}。其^{カシハ}放^{カシハ}ハ國^{カシハ}東^{カシハ}ア^{カシハ}武^{カシハ}也^{カシハ}。
新^{カシハ}義^{カシハ}義^{カシハ}家^{カシハ}以^{カシハ}來^{カシハ}。源氏^{カシハ}を^{カシハ}や^{カシハ}ま^{カシハ}い^{カシハ}じ^{カシハ}事^{カシハ}。
家^{カシハ}代^{カシハ}の^{カシハ}君^{カシハ}は^{カシハ}波^{カシハ}た^{カシハ}。波^{カシハ}と^{カシハ}も^{カシハ}源^{カシハ}を^{カシハ}義^{カシハ}
を^{カシハ}。義^{カシハ}家^{カシハ}の^{カシハ}う^{カシハ}れ^{カシハ}が^{カシハ}。づ^{カシハ}き^{カシハ}タ^{カシハ}ん^{カシハ}謀^{カシハ}教^{カシハ}了^{カシハ}
よ^{カシハ}う^{カシハ}。係^{カシハ}た^{カシハ}神^{カシハ}と^{カシハ}歎^{カシハ}くと^{カシハ}く^{カシハ}と^{カシハ}。射羽^{カシハ}放^{カシハ}ふ^{カシハ}
よ^{カシハ}う^{カシハ}。是^{カシハ}非^{カシハ}かく^{カシハ}。あ^{カシハ}した^{カシハ}ご^{カシハ}ち^{カシハ}て^{カシハ}さ^{カシハ}り^{カシハ}。其^{カシハ}と^{カシハ}み

又教朝を嫌ひて。而國へ歸りやうとば。まとも
歌ふをきくばから。清豐と同そを忽國東より
大詔詔りて。平。まもをもとす。かくし教朝
を伊豆國へす。いたるのやむこ
とくは。擇ざるが有り。かくちどりあそ。あゆ
りあどり。是願とくらべ。ほんとりとし。子家
アモリシヤムのけり。うちあり

今極くん。じ後。後。かう。教朝と伊豆は。湯を
一ハ。キモリ。一セ。アリ。不急。す。じあ。湯。辛。薑
スイ紀。治承四年九月大場事親が許す。

教朝の謀叛と告げられ。お入道家へぞ
らひて。東國の奴反ハ。六條判官お義が一門。
教朝は。教きどり侍どりとつひ。け被ふ。往
仕へ。家人等されば。八箇國のあの人よ。教朝
を。守。後。して。入道が一門を滅ぼす。と
す。も。盜よ鑄を。かづき。よ里ア。お。小虎と
放ち。かくに。仰て。りそ。座み。も。ぬま。び。踊あ
ぐ。も。も。か。い。れ。ど。も。甲斐。か。と。あ。と。見
あ。ぐ。。教朝を害さば。八幡殿の。お。源。滅
じ。か。と。足。く。ま。もし。朝。歌。み。も。す。ば。か。れ。大

私エリとれども。やつはセイカ。非アヒ。けんに。私エリ。
を教シテ。いた。いま。龜カニ。義經ヨシキ。義仲ヨシムカ。の下シモ。聞ヒム。
強ヨシキ。ハ。備ミツシ。敵アシガ。の。多。綠スグ。滅スル。じ。う。く。言ヒ。
ど。是エリ。後アフタ。私エリ。の。財マツリ。う。る。と。龜カニ。義經ヨシキ。
義仲ヨシムカ。を。滅スル。其ヒ。身カラ。も。行ハシメ。く。龜カニ。其ヒ。子コノコ。
私エリ。家ハセ。相シテ。ほ。き。そ。義仲ヨシムカ。相シテ。北條キタノブ。
が。掌シナ。極シナフ。と。き。う。それ。と。こそ。義家ヨシハシ。相シテ。孫コノコ。
滅スル。じ。う。り。と。も。う。ざ。あ。う。れ。ど。も。修ツバシメ。圓ツバシメ。手タトツ。より
私エリ。と。私エリ。と。少。事チトシタ。公カミ。ひ。さ。か。く。一。者モノ。よ。く。九。代
ま。で。不。義。の。富。と。あ。き。り。又。す。せ。せ。と。お。き。り。

や。う。とも。不。貴。よ。わ。ざ。ね。ば。お。や。ま。う。き。れ。す
や。う。び。だ。又。ア。海。海。が。君。公。怪。一。ま。う。く。に。教
と。肩。一。て。か。く。い。さ。り。終。イ。君。長。事。う。く。き。
入。道。が。老。僻。と。う。ど。も。且。耻。且。思。あ。ユ。遂。
り。私。を。擅。よ。す。る。と。わ。ざ。り。だ。キ。生。れ。言。行
人。と。服。と。う。ち。み。あ。ざ。ん。ば。お。足。な。レ。じ。是
真。若。や。う。あ。や。う。も。れ。ど。も。今。公。經。と。み
假。し。会。佛。の。礼。後。然。那。の。令。舊。布。レ。レ
游。よ。那。波。と。い。れ。し。う。じ。是。真。若。や。う。ふ
や。う。平。治。年。中。私。朝。橋。ア。に。き。ー。四。清。豐

う終母池尼。ま坐と相そ。教網の令と公し
ふ。清善布引たまう。うば。ま坐は説ていづく。平
氏の運令下坐さうば。教網有くつても起き
う。是く。運令既に。謁うば。教網たゞくと
滅びざりとづく。げ語真理わふ。仰うとい
へども。仰ぐくへ。教網と相得ば。則く。首を
刎。そし。族多く。名をくぐる。勝とく。
うく。れと。憤て。東云起。ば。師と即く
と討くよ。何のかく。まされわん。ま坐アノハ
つうとうへ。古語よ。與人廟不極。其脱財

其背手袖全其勝とやく。仰う。惜ひ
也。其判空り是く。ざうあく。

○士庶

補

藤仲充が往

俗後云。多田。濱仲。其子。女丸。一作貞。そ。敵。ム
み。少。大。子。惠。少。僧。都。弟。子。す。女。丸。傍。依
を。か。し。ゆ。ど。して。劍術。と。ま。く。う。日。濱仲
女丸。と。呼。ぐ。佛。經。を。よ。ま。せ。う。教。く。は。後。こ
く。う。か。ご。濱仲。大。よ。い。う。刀。を。抜。て。さ。う。ん。と
う。う。だ。丸。經。と。あ。そ。あ。し。で。遂。も。う。は。仲

少々まん博と云ひ長考を仲えよ殺害もぐべき自
を今下がくふ仲えまづふもびじどきさすをもう丸
と折てそゑ女丸が首と多くは仲よりアキヒル後
ノ女女丸作くめて源實と称す
佐宗淳評曰以予觀之仲亮之所為
其志雖可憐而不レ知名教大義也請
哉論之夫父而殺其子者人倫太變
天下難事也石碏之殺其子弑其君
也金口碑之殺兒。紳其君也。是皆出
於不得已。而得義理之正者也。今棄壽

魚可殺之罪。而仲光殺之謂之忠義。可平。然則為之如何。仲光陽從滿仲之命。陰奉麻呂深隱山林。待滿仲之怒漸解。奉麻呂抵京叩頭泣血。然訴曰嚮公子忤命將軍令臣斬之臣意謂若從命則使將軍員不慈乏譏公子致非命則死臣犯將軍之額則嚴命速於星火路進言於星密奉公子賜。則將一種而豪貴予弟也平生所見。見聞非馳馬試劍。則是

率ヒキ黃タツラ臂ヒヂ蒼ソフラ宜ムナチ厭イドテ修シウカラ習ハラ而タケニ嗜タムラ輕タムラ捷タマラ矣。
將シヤウ軍クク欲オヌス殺コロス之ス不タダ亦タダ甚カタマラ平ハサ。方イハ今イマ公カミ子コノシ其ヒ
年ヒサ漸ヨリタメ長キモウレ志シ氣キ英サツ邁タマ決スル兆アキラ可タシマ墮ハキラ箕キス袴スカマ者ハタマタ
也タタ伏フタ願モタメ將シヤウ軍クク察シカ公カミ子コノシ之ス無タシマ罪スレミ懷シニシ臣ミツ之ス
微ヒナタ忠シラタ其ヒ為スル父タタ子コノシ如シテ初ハタタタ而タシマ使シカ公カミ子コノシ受タシマ爵スカマ
於テテ朝チイニ廷スナニ則スル匪ハタタ啻タタタ公カミ子コノシ之ス幸サクタ抑タタタ亦タタタ將シヤウ軍クク
永ヒキ世タタタ之ス福タタタ也タタタ若モレ臣ミツ之ス所トシ言ヒツ不タシマ當タタタ其ヒ理リ
則スル斧タタ鐵タタ刀タタ鋸タタ固タタタ所トシ甘タタタ心タタタ也タタタ滿タタタ仲タタタ雖タタタ昏タタタ暴タタタ
而タタタ父タタ子コノシ之ス天タタタ性タタタ固タタタ有タタタ之ス必タタタ大タタタ感タタタ喜タタタ謝タタタ麻タタタ
呂ロ再タタタ造タタタ之ス恩タタタ之ス不タシマ遑タタタ豈タタタ非タタタ君カミ臣ミツ父タタ子コノシ兩タタタ

全ヒタチ之ス計タタタ平タタタ不タシマ知タタタ出タタタ此タタタ率ヒキ於タタタ不タシマ忍タタタ之ス情タタタ而タタタ
及タタタ為タタタ安タタタ息タタタ之ス事タタタ是タタタ皆タタタ不タシマ學タタタ之ス過タタタ也タタタ悲夫

補

佐々宗德

所藏

羽林朝通タタタ伊東小條女玉タタタ同人討タタタ本邦官役タタタ
佐紀云タタタ羽林タタタ伊東タタタ一男タタタ子タタタ生タタタ於タタタ伊東タタタ後タタタ
千房タタタ也タタタ。佐紀タタタ告タタタ之ス。佐紀タタタ大タタタ也タタタ。之ス
彼タタタ男タタタ女タタタ。伊東タタタの木川タタタ奥タタタ。之ス御タタタ不タシマ志タタタ
ばタタタうタタタ。がタタタの木川タタタとろタタタてタタタに馬タタタ小次タタタ而タタタ。

ぬくにけむば。あくまゐるゝを、
がりくはやげあくら。原行アレドモスムテラキ
きば。あやくはやくで尋タツ。ゆりくノトハドモ
ゆくもとくじめんタリ。がのひとら修兵
至カタニキヅルゆき。おまハジレ行モト
ク。行々く形弱勢を備て。よし、意厚を
討。後了伊東社祭をもあうびて。あらは
をき。以上是年夏秋
紀勇我れ行。○東船脱漏以政子
称。神功皇后再來。ト本朝女船貞
今移す。形弱勢を獨主と爲て。

伊豆國ニ漏れ。二十餘年の事。かく
経て。え來共天と戴ざれ讐言やへば
性情の想をわざんか。さく小寝塊と
れときがべき身のあゆくもあひ乃
臍を踰く處子が摸ふのれあひ。我
身の罪惡を顧じ。是く伊東と恵て。
日牟ともうつみか。やくく伊豆一圓と
領。そしめぐく伊豆。讐言を復すと。バ
情よ御色一ハ。又よ肩よて嫁。影
きちり。不孝不義評。どうにてどど。又

少系がじとも政子。荒廢放蕩不待エ母
之命媒妁之言鎖定一隙踰牆て相候フ。
詩人。士之耽兮猶可說女之耽兮不可
說と賦たり類ぢ。うきひくさうじ。ま
とあはれも惜まつ。彼翁志うづぐれぬい
輿中か死レス。うんぞ云甲斐たく。ニま
うるゝしや。おれもあゞ。又うなとと寄
あわむよちうがし。私ま、ノロ寢アム。波
寒を殺さむ。孔備ノリ罪滅^{キミツ}トシテヤ。
ちうく紙史ノリ醫きとすが。政子が桑中

御瑞ノり稼行あり紙りきまへど。あうひには
貞婦と書。神功ノ再來^{サク}記す。記す。
被^{カレ}をと貞婦^{カタマリ}ハ。いづきう貞婦
かうざんし

廣益俗說辨稿編三十八終

廣益俗說辨殘編三十九目錄

○士庶

補

畠山重忠巴女と義の說

トモ

補

畠山重忠巴女と義の說

トモ

補

足立友九郎と鹽長が說

トモ

廣益俗說辨殘編三十九

肥後隈卒 井澤節長秀輯錄

○士庶

補

島山重忠巴女と名づけ

源平盛衰記曰。島山重忠は院満正にあり
あらが木曾と。もしくちもきん。わらしきみ
くそ。三條河魚もす。木曾と河を隔て
射合。木曾も。三條も。木曾も。木曾も。引
あらが木曾も。木曾も。木曾も。木曾も。
木曾も。木曾も。木曾も。木曾も。木曾も。

魚感乃鎧。夜。伊豆の心多負。漫夜の弓。玄
高。中。そり。芦毛の馬。巴。持。射。馬。
そる。武者。一。殊。よ。と。ん。て。射。い。う。射。ふ。
強。く。斬。毛。ほ。よ。純。合。さ。く。そ。け。ふ。行。
の。島。と。け。ふ。へ。そ。う。と。引。て。も。半。尺。を。呼。く。
じ。き。者。ひ。つ。た。ち。お。ど。同。成。清。多。く。あ。が。
ま。は。本。曾。乃。乳。母。中。と。椎。頭。を。ぐ。ぬ。子。巴。と。
夕。に。女。た。ち。強。ら。の。多。妻。ま。る。ま。れ。よ。子。乳。
母。子。ま。る。妻。と。門。子。は。童。乳。つ。よ。や。す。に。す。
す。軍。子。は。一方。の大。将。軍。と。え。よ。不。見。

名。を。う。じ。と。ア。と。ま。る。因。て。本。曾。の。妻。と。之。
ば。た。う。う。き。ぞ。ま。る。今。日。の。深。分。よ。巴。み。組。
あ。レ。虜。小。ア。ん。と。そ。わ。て。返。し。本。曾。組。中。に。結。
こ。か。く。え。ん。ご。み。ゆ。よ。島。ふ。ハ。巴。と。因。組。を。そ。
す。み。も。う。ご。れ。お。ぐ。ま。お。く。く。よ。く。れ。べ。本。曾。
は。巴。を。く。ぬ。ア。と。そ。つ。て。そ。く。二。ら。ぐ。と。三。
四。う。一。け。く。處。不。島。ふ。お。き。う。お。近。く。お。ぐ。
わ。よ。お。く。ら。復。宣。と。お。ひ。ぐ。を。よ。り。て。巴。ぐ。う。子。ま。
禮。ア。紳。よ。お。つ。と。う。巴。う。お。ひ。と。や。や。と。い。き。ん。
一。報。ア。う。う。う。う。れ。べ。ま。う。う。馬。ハ。馬。風。と。あ。

位法第一乃強^{レバ}。されば鎧乃袖^{ツテ}。うと^リき
つ^ク。二^んじうそ^のじよ^う。島^ハや^うこ^ミ。是
はす^ハや^うげ^て。鬼^{ジン}神^{ジン}れふ^ムひ^ウ。う^か
の^カ。矢^ヤ一^りを^モ射^ス。う^かく^セて^ハ。承^エ代^ハ。心^ハ
あり。し^くみ^{スキ}と^だと^て。河^カ奈^{ニシ}と^あ。引^リも^うぞ^れ。
院^{イニ}の^寺所^{レヨ}は^ス帰^カ。その^モら義仲^{ナカ}。さ^イ。義^ヨ仲^{ナカ}。さ^イ。義^ヨ仲^{ナカ}。
女^ハを^ほき^一を^いむ^んと^ゆく。巴^ハを^ホキ^一。巴^ハを^ホキ^一。巴^ハを^ホキ^一。
く^れん^しある。

今^ハ接^ス。留^メと^本曾^{ハタケ}公^キ。詩^シん^ス。三^三條^カ河^カ
永^モあ^て。ゆく^シいと^か。本^曾と^ゆん^と

そそ^ハよ^びま^ん巴^ハ。そ^くく^モ御^モ。本^曾乃^モ妻^モ
と^うだ^なく^まと^うま^と。ま^るか^人ノ^日の^得。う^かよ[。]
虜^{トロ}小^{トロ}人^{トロ}と^うと^う。あ^きりに^{トモ}巴^ハを^回。う^め
ね^コ色^{シヨク}よ^ハ義^キと^易。う^め。お^う。う^め。實^シ謹^シ
厚^{コウ}た^ちま^た。不^シろ^{とも}。ま^くく^ど。又^ハ本^曾
う^かく^絆令^ス下^ス。ん^とと^と。ち^かも^嫉妬^シ。一^て。巴^ハ
と^くぬ^ま。ス^モ義^キ仲^{ハタケ}。う^かか^經。よ^かを^つま^と。が^くり^いい
き^き。又^ハ巴^ハを^歸。か^くり^い。う^かか^經。う^かか^經。
あり。う^かく^{より}。ほ^きと^ざう^がよ[。]常^ツの^出陳^ゼ

子は女を連てもしく引くべし。又兵船の軍に
はくらひぬきりとりより乃ち別あらんや。ほよ巴
をうぐまくじ。とくは後鼎スヰとおふ強ゴウ力リキありて。
敵十人二十八ウタ討タマりて。何れ用あら是タニべ
よ用ヨウも是タニもア。女をかくじて。事と關
といふ。甲斐カヒたれよ御メシり。さすまかづ巴と
くさんとア。時。義仲イシヅチく爲せど。湯ハダきを
それ。出ヒツ除ギツノ法アトをすば。せひ乃カれ不
義ギりやもしろ。氣キづひかう。どふも
かくも千載チヤウの矣エよりひと禮イシツ。

附 俗名下野書焉。本名義仲。流主秀よあらて。るう
本名よあらて。ば矢ハサの石田源而ヨシタケル。久ク放ハセて。石シタ。室ムロ
ゲ。故アラて本名義仲ヨシタケル。石田ヨシタケル。久ク放ハセて。後アフタ。室ムロ。ゆく
くアラ。久ク。久クをかくし。難ハシのむハシ。うきんホサ。ちチ。よき
く。久ク。矢ハサ。矢ハサ。よあらて。と名ナ。日。義仲ヨシタケル。主ミタケル。女メを
つまアラ。軍カウ拂ハセ。巴ハサとつまアラ。圓カク年イニ下アシ。媒ハシて。和ハシ。差
ヶハシ。妻ハシ。すアラ。と。今ハシ拂ハセ。本名アラ。と。義仲ヨシタケル。と。見
オハシ。紛ハシ。と。かハシ。本名アラ。と。義仲ヨシタケル。と。見
ぬハシ。僕ハシ。も。です。後アフタ。牙ハシ。たハシ。義仲ヨシタケル。と。討ハシ。る。石シタ。公ハシ
や。じ。敵アラ。味ハシ。方ハシ。小ハシ。ゆき。す。死ハシ。と。義仲ヨシタケル。と。討ハシ。せ。ご
行ハシ。そ。い。巴ハサ。と。つまアラ。と。う。行ハシ。と。う。と。う。

補

俗從曰。能ハシ。平教經。秀永三年二月六日乃
英守フホウ。大義タケニ。

モモ。相手に結つて。それよりて。教経の家人
織枝六郎經はとつて老。教経乃、夜勤を而て
着し。長刀をく抜き。教経の旁不ふう。敵
うちて。明石のまへ彦ゆき。死ゆる。敵
は。赤とてあり。と。安田をも。義定の家
田原源み首公取。其の首公取のやせ七条の
京の獄門。かくふ。と後左將れ合戦。教経
と義定も。い。織枝上り而經付たり
今接あよ非たり。是ハ東鎧壽永三年
二月七日條下但馬前司経正。能登守教

經備中守師盛者。遠江守義定護之同
十五日氣頼義。經。飛脚。參著。鎌倉獻合
戰記錄段。經。正師盛教經。以上三人遠江也
あきば盛。裏記。よ檀浦。よそ。教經入水
とある。役と相違。と。寃とりうて。近年始
事。老矣。役を役。きて。東鎧と。名合さん
とす。もう終ど。け教經。よ。盛裏記
一部のうち。と。た。中将清経。を。も。圓
柳浦。と。入海。と。書く。ス。豊後圓よそ。
資盛清経。義定とあり。右平記。よ。大佛

貞直サタナラ於鎌倉オイテ カニ戰死クラニセシと書シヨし。又於阿院オイニ院家カニ
被ミル誅チフとも記キたり。一變ヘン一ヒト事モノ如シテ是ゼされ
ば。教經セシニ戰死セシニのあ後アヒト也。又何シテまう是ゼなふ
アホアホもアホ。又教經セシニ云シテはよ。後アヒト波ハラ山サン經キヨ
とりモリふモリ者モリ。能モリ也モリ。教經セシニとウタハラまモリ一ヒト事モノ據モリコロ也。
彼タクハよ能モリ也モリ。爭猛勇モリユウヨウ絕偏ゼビン詔アタカ孟貴モリフニリキ力モリコロ
族タクハへ后コウ羿ゲイぐらモリを關ヤシマ。至アヒト終モリコロを以モリコロ。繼信モリコロ
鹽改モリコロ以下モリコロと射サト落ハラシ。檀浦タケウラを以モリコロ。安藝アキ
左モリコロ而足牙ハサウエを挿ハサウエ。海シマよモリコロ。其モリコロ効モリコロく
虎ヒョウ波ハラ羊ヒツジ貨モリコロ乃モリコロ仰モリコロ者モリコロ矣モリコロ。大モリコロき事モノは

や。比モリコロ倍モリコロ從モリコロ乃モリコロ相遠モリコロ。并モリコロとゆモリコロびモリコロ一ヒト解モリコロ
ナリ

補

武姦坊サニボウ并モリコロまモリコロ然モリコロ時モリコロ糾モリコロ面モリコロ堪モリコロ傍モリコロが子モリコロつモリコロ役モリコロ

信モリコロ行モリコロ云シテ。面モリコロ塔モリコロの武姦坊サニボウ并モリコロまモリコロ。糾モリコロ面モリコロ堪モリコロ傍モリコロが子モリコロつモリコロ役モリコロ

堪モリコロ增モリコロ一ヒト從モリコロ。并モリコロ澄モリコロが子モリコロつモリコロ。

聖別モリコロ高モリコロ堪モリコロ傍モリコロの子モリコロ。事モリコロあモリコロやモリコロとモリコロすモリコロり
予モリコロ考モリコロ列モリコロ名モリコロ勝モリコロ志モリコロ并モリコロまモリコロが事モリコロ跡モリコロうモリコロて
人モリコロもモリコロ。往モリコロ來モリコロハモリコロ後モリコロ從モリコロ行モリコロとモリコロすモリコロり。并モリコロまモリコロハモリコロ生モリコロ
雲モリコロ國モリコロ根モリコロ根モリコロ郡モリコロ枕モリコロ木モリコロ里モリコロの者モリコロとモリコロ。後モリコロ左モリコロ平モリコロ日モリコロ
の葉モリコロ本モリコロ姦モリコロ坊モリコロ并モリコロまモリコロ。枕モリコロ木モリコロふモリコロ花モリコロ綴モリコロ乃モリコロ與モリコロトモリコロり。

又ハ玄宇那經クニアリモト。修ナガミ也。承ナガミ也。不
アリ。弁タマが考タマシ。弁タマが母ハカの墳墓あり。又
弁タマ考タマ。弁タマ水ミツとアリ。然セキあリ。懷カイ持カツ
後ダシよアリ。情カイ持カツハ本ハタケ太ヒツ著シテ。出ハタケの慈
弱カイとアリ。紀カイ伊イの社カミアリ。おらぐオラグアリ。の
ナリタベナリタベ。同タメ夜ヤハ活ハス。日ヒ夜ヤハ祭マサニ。五ゴ著シテ也。
安達アダチ若九郎カクラン也。長ナガ役エキ。

俗カイ役エキ曰。羽ウ羽ウ卒ハタケ家ハタケ追ハシ付ハシアリ。後ダシ生シヨウの功ノラコウ勞ラウ有アリ。安カイとアリ。へらハラム。事カミを若九郎カクラン也。長ナガ一
人ヒトもアリ。豈ハシ長ナガ也シを憚ハシ。羽ウ羽ウハシ。我ワタクシアリ。

燈カミ火カミアリ。火カミ。汝タチノ聲カミ。とアリ。シテシテに。其カミ
火カミ。りと運カシ。としシ。火カミ。天アトと掌ハタハタ握アラ。大
圓コトブをあアく。功カミを報カミ。ざんとつシテ。火カミ。しシ。よ
あアく。口カミをゆハシぐ。そシテ矣ハシ。アリ。火カミ。於カミ前カミの陸カミに。う
ふ。こシ。とシ。我ワタクシ。假レバ。骨コツ髓ズイ。よシ。うシ。き。じ。か。よ。汝タチ
と後ハシ小ハシす。と。や。火カミ。盛モリ。長ナガ。い。り。く。う。の。う。た。ア。事カミ。
公カミの作ハシれ。や。く。ち。ア。レ。ど。も。君カミ。大シ。乃カシ。義ギ。末カト。の。愛
アシ。きて。去ハシ。火カミ深カミ。二。十。餘。年。の。早。暮。と
アシ。勤。仕。と。日。又。直。當。火カミ。ま。く。経。り。ど。や。ゆ
門カミ。火カミ。も。ま。ま。と。あ。か。て。わ。づ。く。掌。ま。か

今持り小じ従例の妾モウサク作ハシメテ。實録ヒツロクにうて
 爲タヌケト貧ニチヨリ及ニテ得フツキラ富貴メクミラ以テ百金ヲツグナ償レバ之ヲ燕ハシメ貸ヒトニ百錢セニラ
 所トコロノ嘗カツア見ミル德メクミラ者モノニ。其ソノ從ジウ者シヤ有アリ一人ヒト獨ヒトリ未ヒタマ得セレ
 報ホウウ。乃タチ前スニ自ミガライフ言ハシメタカ。漢カンカ秦シンカ曰ク。我レ非アフス忘ヌルニ子シラ。子シラ之シガ
 無ウカ我レ至タク燕ヨシニ再シニ。欲ハシメト去ワララ我レ易アシメテ水ヲ之シラ上ヲ方ヲ
 此ヒタチ時ヒメニ我レ困クルニ故シラヌ望シラヌ子シラ深モツテ恩イシス以ハシメテ後シラニ子シラ。子シラ今ヒタマ
 亦エタタ得ハシメタ矣シタ。史シタ記シタ。従ヒツメテをもひて作ハシメテをもひゆ
 たまびし。やくそく人ヒトノ力アシタマのあハシメタるを藏ハシメタすと
 あまたや鏡ソノジラの其裏シラと光ヒラメカるがハシメタ。眼メラ

其ヒト瞳アシタマをうかがハシメタれましひく。智アシタマある人ヒトや
 りくヒト。これと瞳アシタマとともありど。うかがハシメタる
 あ。他ヒトよひそそを用ヒツメテ。そのよひそその公ヒツメテんで。我レあハシメタらと
 用ヒツメテ。人ヒトのよひそそがハシメタんで。我レあハシメタらと
 あハシメタら。若ヒトこれより大ハシメタはハシメタ。が
 遷志齊サンシ咸シニ曰ク。見ヒツメテ人ヒト不ハシメタ善ハシメタ。莫ハシメタ不知ハシメタ惡ハシメタ。已ハシメタ
 有ハシメタ不ハシメタ善ハシメタ。安ヒツメテ之シタ不ハシメタ顧ハシメタ。人ヒト々ヒト惡ハシメタ々ヒト。心ハシメタ與ハシメタ海ヒタマ
 同ハシメタ。海ヒタマ惡ハシメタ不ハシメタ改ハシメタ。人ヒト寧ハシメタ海ヒタマ容ハシメタ惡ハシメタ已ハシメタ所ハシメタ惡ハシメタ。德ヒタマ
 乃ヒニ日ハシメタ新ハシメタ。已ハシメタ無ハシメタ不ハシメタ善ハシメタ。斯ヨク能ハシメタ惡ハシメタ人ヒト言ハシメタ。人ヒト乃ヒニ
 あハシメタ本ハシメタ人ヒト。あハシメタ本ハシメタ人ヒト。あハシメタ本ハシメタ人ヒト。

と。わざ身のあきらめがまわづてや
たゞど人乃我^{アキニ}をやくひも。わざ人乃我
をゆくじよ同ド。わざれわきは、わきをあ
げて、人れわきはりと。用ありのあ
うわざぐ。他^{エト}アキラきとゆすま。わざれ
よ。わきはき。まわるふあきをしらべ。
其德^{シナトク}をみゆくなう。我^{アガミ}身^{ミツ}よあ
なまくして、いのちのあきをりくば世人^{シニヨウ}を
すりこす。若^{セニ}と悪^{アシ}くに。一かおりゆくわくとく
とも。善^{タヌカ}こと千里^{チリ}をす。

身^{シム}。身^{シム}を曉^{アハ}ぐ。身^{シム}を顧^{カハリ}そ。心^{アハ}と悔^{クル}
ゆく。身^{シム}を神^{シント}道^ト。ハ。後^{ハラ}降^クつ。後^{ハラ}
除^ハ。洗^{アラヒ}たう。舊^{キウ}潔^{ゼン}のけ^トと。新^{アラタ}よ^トう也。
すくとくふ。おとこほのまの風^{ハタナ}たま
アキラバ朝^{ハキ}。爲^スとすとくうり我^{アキ}ゆ^セ此
其^{アキ}をうづく



